

## 現代詩創作 3 篇

国語科 山之内 勉

### 1 きょうだい

きょうだいはいますか。

いません。

一人っ子です。

そう言って何度姉を殺してきたことだろう。セピア色に写った三人。若い父。若い母。切り取られた小さな人。それを姉だと教えてくれたのは遠い親類だった。予防接種の後遺症で神様になったのだよ。寝たきりで口もきけなくて。お世話が大変でね。幼い神様には可哀想だが一人で遠くへ移ってもらった。お腹にいた君のためだとお母さんは泣いていたよ。

きょうだいはいますか。

います。

寝たきりで口もきけない神様です。

そう言って何度父母を裏切ったことだろう。でも私はオトウトになりたかった。父母に黙って姉に会いに行ったのは結婚式の前日だった。山深い初夏の緑の施設。どきどきしながら初めて見た姉の顔は私にそっくりだった。なんだ姉さん。鏡越しに毎日会っていたのですね。あなたは私の中で生きていたのですね。驚きと安堵、次に痛み、そして涙。

息子が五つになった時、姉に七五三の晴れ着を見せに行った。初対面の甥と伯母は不思議そうに見つめ合っていた。ひさしぶりに見た姉の顔は息子にそっくりだった。なんだ姉さん。あなたは私のそばに来てくれていたのですね。驚きと安堵、そして涙。

きょうだいはいますか。

います。

そう言っても寝たきりの母はもう怒らなかった。弔いの後、山深い冬の施設に行った。姉の顔は母そっくりになっていた。白髪の模様も。しみの形も。前歯の抜け方も。

なんだ姉さん。みんな、あなたを生きていた。あなたは、私たちを生きてくれていた。驚きと安堵、そして静かな涙。

(第 28 回伊東静雄賞受賞作品)

## 2 ハッピーバースデー

今日は死んだ祖母の 百四十二歳の誕生日だ トイレの窓から 雨にうたれて光を流している あじさいを見る 祖母はかくれんぼをしていて トイレのスリッパの中に隠れ それっきり もう七十年も出てこない あじさいは	以来 紫色の濃い沢山の眼で こちらをじっと見ている わたしは窓を閉め 祖母の好きだったシャンパンを開け ケーキにナイフを刺した トイレの方から おおきなくしゃみが聞こえる
	(南日本新聞「南日詩壇」)

## 3 押し花

くるってる くるってない くるってる くるってない  父さん 聖書をおぼえていますか 繰り返し あの人が読み 書き込み つぶやいていて  ページの言葉に呼ばれ 人の声が降りてきます —あのかすれた声は 殺された男よ あの甲高い声の男は じぶんで死んだわ— 文字は洗い流され ページはいつの間にか 真っ白になっています その上に 手形や 足形を おしていく人々がいます	あの人は音を鳴らして 聖書を閉じます 目の前を横切るものを 次々と すばやく聖書に 畳み込んでいきます 祖父の階級章 軍馬の糞 京城駅の赤煉瓦 引揚船の鼠の歯ならび 相模女子大の銀杏 平野謙のジャケット 父さんの英文タイプ わたしの産声 手術室の无影燈  父さん 聖書はいま わたしの机上です ひらけば 綺麗な 艶めかしい 強烈な匂いを放つ 押し花が 咲きはじめ 咲きはじめ
	(2020年度南日本文学賞受賞作品 『詩篇・穏やかな日々』より)